

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	仲田莉果	学校名	埼玉県立大宮中央高等学校 (単位制による通信制)
担当教科等	地理歴史 (地理 A)	対象学年 (人数)	1～3年次 (32名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	令和3年 1月 7日 (1時間)		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：地理歴史 「地理A」 第4回目のスクーリング (最終回)	
2. 単元(活動)：「地球的課題と私たち」「日本の自然環境と防災」	
3. 授業テーマ (タイトル) と単元目標 授業テーマ：「地球的課題と私たち」「日本の自然環境と防災」 —SDGsを通じて地球的課題や防災に関する問題を学び、私たちの生活の在り方について考えよう— 単元目標：①環境、資源・エネルギー、人口、食料問題は、それぞれ相互に関連し合っていることに気づき、これらの課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。／②我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることについて考察させる。 関連する学習指導要領上の目標： 1. 科目の目標：(1)ウ、地球的課題の地理的考察「環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。」／(2)イ、自然環境と防災「我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。」 2. 内容とその取扱い：(1)ウ、地球的課題の地理的考察 「この中項目は、環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を大観するとともに、具体的な事例地域を通してとらえ、各地域でその現れ方が異なっていることを理解させ、また、それらの解決に当たっては持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させることを主なねらいとしている。」・・・中略・・・ ・・・「環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題」は、現代世界が抱えている多くの地球的課題の中で、地球的視野から大観するとともに、地域性を踏まえてとらえることによって問題の所在や解決の方向性などがより明確になり、地理的に考察することが効果的な課題である。」 (2)イ、自然環境と防災 「この中項目は、生活圏の諸課題のうち、自然災害に関する課題を扱い、日本で発生する自然災害の典型的な事例を学習するだけでなく、生徒が居住している地域の自然災害について、年次の異なる地形図やハザードマップなどを読み取るなどの作業的、体験的な学習を通して、生活圏における自然環境の特色と自然災害とのかかわりを理解させるとともに、地理的技能を身に付けさせ、これらの学習から防災意識を高めることを主なねらいとしている。」	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 ①環境、資源・エネルギー、人口、食料問題といった地球的課題について理解を深め、それらが互いに関連していることに気付くことができる。「SDGs」や「フェアトレード」についての基礎

		<p>的な知識を身に付け、開発途上国の現状を知ることができる。</p> <p>②日本の自然環境の特色と自然災害の関わりについて知識を深め「ハザードマップ」の基本的な使い方を理解することができる。</p>
	<p>②思考力、判断力、表現力等</p>	<p>①地球的課題が相互に関連しあっていることを踏まえ、先進国と開発途上国が協力して解決していかなければならないことに気付くことができる。また、そうした世界の現状を知り、自らの生活を振り返ることができ、考えたことを適切に表現できる。</p> <p>②東日本大震災で被災した「旧荒浜小学校」について学び、なぜ震災遺構として残されたのかについて考えることができる。また、防災の重要性について考え、GISを用いた「ハザードマップ」から、指定された場所を正しく見つけることができる。</p>
	<p>③学びに向かう力、人間性等</p>	<p>①地球的課題について学び、「SDGs」が自分の生活のどの部分に関わっているものであるかを考え、生活を見直すことができる。</p> <p>②震災遺構である「旧荒浜小学校」の映像や、「ハザードマップ」の読み取り作業などを通して、防災意識を高めることができる。</p>
<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>本課程は県内唯一の公立通信制高校に置かれた課程であり、様々な事情により他校から転学または退学した生徒のみを受け入れている。グローバル化が進む中、こうした特殊な環境で学ぶ通信制の生徒に対しても、環境問題やエネルギー問題、人口、食料問題など世界中で起こっている地球的課題について理解を深めてもらいたいと考え、今回の単元設定に至った。また、東日本大震災が起こって10年目を迎えようとする今、「防災教育」の必要性を鑑み、災害の恐ろしさや防災の重要性について考えてもらいたいと思ひ、日本の地形と自然災害についても取り上げる。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>「地球的課題と私たち」と「日本の自然環境と防災」は、「地理A」の最後に学ぶ大単元で、令和4(2022)年から実施される「地理総合」の新しい学習指導要領にも引き継がれる重要な単元となっている。現代社会が直面しているさまざまな地球的課題や特徴ある日本の自然環境、そして日本で実際に起こった自然災害などについて扱う。</p> <p>今回は、今注目されている「SDGs」^{エスディーズ}を紹介し、環境問題とエネルギー問題、人口、食料問題が相互に関連しあっていることに気づいてもらうことをねらいとする。また、それらが複雑に関連しあうことで、より解決が難しくなっていることにも触れていきたい。スクーリングでは「SDGs」を切り口に、日本やザンビアで撮影された写真が「SDGs」のどのゴールに当てはまるものかを考えてもらう。また、フェアトレード認証のバナナ繊維からできた「バナナペーパー」製の「SDGs」シールを使ってワークをしてもらうことで、生徒に「フェアトレード」をより身近に感じてもらうような工夫も取り入れる。</p> <p>もう一つの単元「日本の自然環境と防災」では、東日本大震災の遺構である「旧荒浜小学校」を取り上げる。地域の住民にとって、震災の悲しい記憶のある遺構をなぜ残すことにしたかの経緯、震災後今なお大勢の人々が来館されていることについて学び、防災の重要性について考えてもらうきっかけを与えたい。また、今回はスマホを用いて、生徒に「防災マップ」を実際に使ってもらい、防災意識を高めることもねらいとする。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>本校は通信制高校であり、生徒は週1回のスクーリング(面接指導)、レポート(提出課題)による自学自習を中心に学んでいる。単位制であるため学年の枠がなく、生徒は自分の未修得の科目を選んで履修する。単位認定は半年ごとに行われている。</p> <p>今回対象とする「地理A」のスクーリングは、新入生を含んだ32名が受講している。生徒の実態として、いじめや不登校の経験等さまざまな事情を抱えて本校に来た生徒が多く、他人と関わることが苦手な生徒も見られる。学力や学習意欲の差も大きいため、具体的でわかりやすい教材の提示やこまめな机間巡視、学習の動機づけが求められる。</p>	




【指導観】

先述したように、通信制高校には他人との関わりに強い苦手意識を持っている生徒が多い。そのため、グループワークなどの主体的な活動を入れることが難しい。全日制に比べて授業時数も少ないので、1回で最低1つの大単元、一度に教科書数十ページを進めなければならない。従って授業内容の精選を念頭に置きつつも、生徒に主体的な学びを提供できるような授業づくりを心掛けた。今回はプリントを用いて、生徒が個人でも学べるシールを用いたワークを導入し、映像などの視聴覚教材も積極的に活用した。

6. 単元計画 (全 1 時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース 活用はこちらに記載
1 本時	「地球的課題と私たち」	環境、資源・エネルギー、人口、食料問題は、それぞれ相互に関連し合っていることに気づき、これらの課題の解決には、持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球環境問題にはどんなものがありますか」を発問し、生徒に考えてもらう。世界中で環境、資源・エネルギー、人口、食料問題が起こっていることを説明する。 ・環境問題の解決のために「持続可能な開発」が目指されていることを紹介し、SDGsについて解説する。SDGsを載せたプリントを配布し、「あなたは『SDGs』の中で、どれが最も大切な目標であると思いますか？」と発問し、生徒に選んでもらう。 ・日本の「次の写真は、『SDGs』の17のゴールのどれに関連するだろうか？」と発問し、提示された写真をSDGsで分類してもらう。 <p style="text-align: right;">例) SDGsの12</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICAで入手した世界地図 ・フェアトレード認証のバナナ繊維からできた「ザンビアバナナペーパー」製のシール ・ザンビア各地で撮影した写真（鍵のついた水道、路上で販売されている木炭） ・アジア太平洋資料センター（PARC）「もっと！フェアトレード」（2014年製作）DVD 
	「日本の自然環境と防災」	我が国の自然環境の特色と自然災害とのかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が大切であることなどについて考察させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本はなぜ地震大国なのだろうか？」と発問し、日本はプレートの境界にある国であるため地震などの災害が多いことを説明する。 ・東日本大震災の震災遺構「旧荒浜小学校」を紹介する。震災が起きて10年目を迎えるとする今も、被災した荒浜小学校が、震災遺構として残されていることに触れ、残された意義や防災の重要性について考えさせる。 ・奈良大学地理学科が作成した「防災マップ」から「大宮中央高校を探してみよう」と指示する。生徒には、QRコードからスマホで読み取ってもらい、実際に探してもらう。  <p>「防災マップ」を読み取り、大宮中央高校は「避難場所」となっていることを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の公式ホームページ「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」紹介映像 (https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html) ・「防災マップ」（奈良大学地理学科の木村教授より提供）  <p>(https://arcg.is/1eHDru)</p>

7. 本時の展開 (1 時間目)			
<p>本時のねらい：SDG sを通じて地球的課題や防災に関する問題を学び、私たちの生活の在り方について考察する。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>出欠確認 (3分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・OCR (出席表) をまわし、出欠確認をする。 ・レポートについての本校のルールを説明する。 ・教科書やレポートのページを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出期限など、具体的な日にちを板書し、確認させる。 	<p>地理Aレポート6通目 (以下、レポートp○○と表記する)</p>
	<p>発問「地球環境問題にはどんなものがありますか」 Ex)森林破壊、砂漠化、地球温暖化、オゾン層の破壊・世界中で環境問題が起こっていることを説明。 レポート p6-1 1節【1】(1)～(6)を解説。 ・日本の動向として、2020年菅首相が2050年までに温室効果ガスゼロを目標としたことを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では指名をする生徒が委縮してしまうことがあるので、様子を見ながら行うよう配慮する。 ・教科書p148を参考にして問題を解いていく。机間巡視で確認。 	<p>教科書p148 「さまざまな環境問題」 レポート p6-1 ・世界地図</p>
	<p>環境問題の解決のために持続可能な開発が目指されていることを説明し、SDG sについて紹介。 発問「あなたは『SDG s』の中で、どれが最も大切な目標だと思いますか？」(3分) こうした地球規模の問題に対する、2030年までの17のゴールを「SDG s」と言うことを解説。 レポート p6-2 3節【1】(1)を板書し解説する。 レポート p6-2 4節【1】(1)を板書し解説する。 発問「次の写真は、『SDG s』の17のゴールのどれに関連するだろうか？」(5分)</p> <div data-bbox="331 1198 785 1478" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG sシールを配布 (JICA東京より提供して頂いたもの) ・シールの使い方を説明しておく。 ・授業プリントを配布 ・黒板に貼った世界地図で「ザンビア」の位置を確認させる。 ・SDG s 12「つくる責任 つかう責任」を例に挙げ、【Q2】の作業の方法を説明する。机間巡視も行う。 ・【Q2】の解答は大型TV画面に表示する。 ・授業プリントにある例2と一緒にやりながら、作業の方法を説明。 	<p>教科書p149 レポート p6-1 1節【1】(6) ・SDG sの図</p>  <p>授業プリント【Q1】 ・世界地図 教科書p154、158 レポート p6-2 授業プリント【Q2】</p>  <p>SDG s 12「つくる責任 つかう責任」</p>
	<p>「発展途上国」ではSDG sの達成が困難であることを伝え、途上国の食料問題について紹介する。 レポート p6-3 6節【1】(1)を板書し解説する。 発問「みなさんは『フェアトレード』という、どんなイメージが浮かびますか？」 DVD「もっと！フェアトレード」(4分)を視聴。 ・安価な農産物や衣類、雑貨の生産には、途上国の犠牲があることについて、補足説明を加える。 ・配布したSDG sシールもフェアトレード認証のバナナ繊維から作った製品であることを伝える。</p> <div data-bbox="290 1841 646 2065" data-label="Image"> </div> <p>配布したシール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「発展途上国」ではなく「開発途上国」という言い方に留意する。 ・教科書p162を読んでもらう。 ・授業者が実際に去年ザンビアを訪問した時の体験なども伝える。 ・生産者も消費者も、エシカル (倫理的) でサステナブル (持続可能) な視点が必要であることを伝える。 ・地球的課題の解決のためには、開発途上国と先進国が協力していかなければならないことを強調する。 	<p>教科書p162 レポート p6-3</p> <p>教科書p163 DVD「もっと！フェアトレード」(2014年製作) アジア太平洋資料センター (PARC)</p> 

	<p>バン格拉デシュ縫製工場倒壊事故の解説を行う。 発問「日本はなぜ地震大国なのだろう？」 Ex)兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震・・・ →日本はプレートの境界にある国だと説明する。 レポート p6-4 2章【1】(1)～(3)を解説。 「遺構荒浜小学校の紹介映像」(3分)を視聴。 東日本大震災が起きて9年目を迎える今も、被災した荒浜小学校が、震災遺構として残されていることを紹介し、防災の重要性について考えさせる。 発問「防災マップで大宮中央高校を探してみよう」 →大宮中央高校は「避難場所」とであると説明する。</p>  <p style="text-align: right;">防災マップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p 178 を参考にして、レポート p6-4 2章【1】(1)をやってもらおう。机間巡視で確認。 レポート p6-5 2章【2】(5) 仙台市のホームページにある「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の項目を提示し、施設概要を伝える。 QRコードからスマホで「防災マップ」を読み取ってもらい、大宮中央高校を探してもらおう。 机間巡視をしながら声掛けする。 	<p>教科書 p 178 レポート p6-4, p6-5</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台市の公式ホームページ「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」紹介映像  <ul style="list-style-type: none"> 「防災マップ」QRコード (奈良大 地理学科) 
<p>まとめ (5分)</p>	<p>本時の感想をプリント【Q3】欄に記入 (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位を修得するための教科のルールを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【Q3】に感想を記入しているか確認し、レポート締切日を伝える。 	<p>授業プリント【Q3】</p>

9. 学習方法及び外部との連携：外部機関との連携はできませんでしたが、現代社会「私たちの生きる社会」の単元でも、ザンビアの写真や実物教材を活用し、現地での体験を紹介しました。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

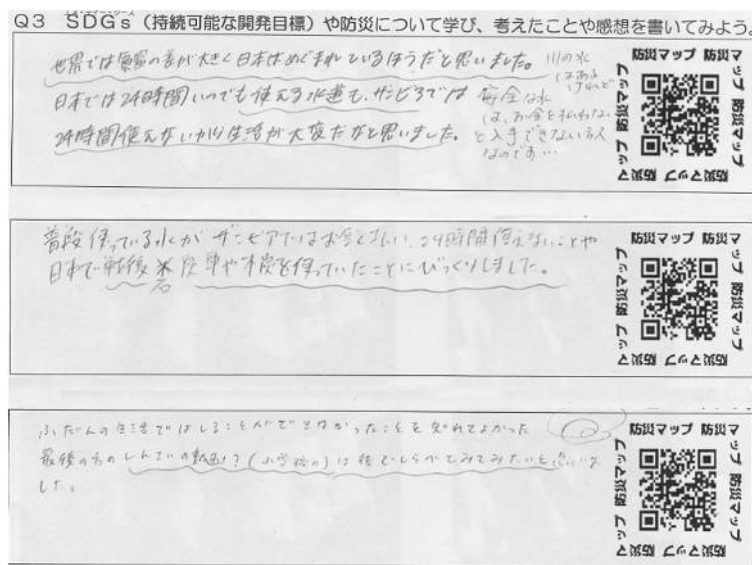
今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、学校内外で授業実践を広める取組はほとんどできなかったです。前年度の教海研参加時に参加した、埼玉県高等学校定時制通信制教育研究協議会も開催されなかったため、校外で国際理解教育や授業実践の取組を紹介することはできませんでした。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>通信制高校での実践だったため、通信制ならではの様々な制約があり、指導案作りには非常に苦勞しました。通信制では、授業の出席は任意で、遅刻は10分まで認められていることや、当日にならないと何人出席するかわからないことなど、全日制高校とは異なるルールがあります。</p> <p>今年の教海研では、震災遺構である「遺構荒浜小学校」関係者によるオンライン講義がありました。私自身、この遺構荒浜小学校とのZOOMを用いた研修プログラムが大変心に残り、せっかくなので防災をテーマに授業づくりをしたいと考え、「地理A」の授業に決めました。授業前半に「地球的課題」の単元でSDGsを取り上げ、後半に「日本の自然環境と防災」で「遺構荒浜小学校」を取り上げることにしました。しかし、テーマは決まったものの、通信制では1回のスクリーングで教科書数十ページ進めなければならず、教材を精選していかなければなりません。また、本校の生徒は県内様々な高校から転退学して来ているため、学力差が大きく、教授方法にも工夫が必要です。いじめや不登校の経験を持った生徒も多いため、対人関係にトラウマを持つ生徒に、いきなりグループワーク等の主体的な活動をしてもらうことはできません。こういった様々な課題を1つ1つ検討しながら、指導案を作っていくことは、予想以上に大変でした。</p> <p>ただ一方で、昨年度から教海研に参加していたため、前回の授業づくりがヒントになることもありました。昨年度は「スマートフォン」の原料である「レアメタル」をテーマに授業を作りましたが、生徒の反応が良好でした。そのため、今回は実際に「スマートフォン」を用いた活動を</p>
------------------	---

	<p>取り入れてみたいと思い、QRコードを用いた作業を取り入れることにしました。その結果、QRコードからスマートフォンで「防災マップ」を開き、身近な地域を読み取ってもらうような作業を入れました。このように、昨年度を参考にしつつ、日々悩みながら指導案を書いていきました。</p> <p>そして、指導案を考える上で苦労したもう1つの点は、生徒に興味を持ってもらえる視聴覚教材探しです。今回は、「地理 A」の教科書にも載っている「フェアトレード」についての映像を見つけないかと思い、映像探しに奔走しました。膨大な内容を一度に扱う通信制の授業では、時間の制約があるので、自分が解説するよりも見せた方がいいと思える映像だけを厳選しました。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>先述した通り、本校は通信制高校であるため、対人関係に強い不安や苦手意識を持つ生徒が多く、グループワークなど主体的な活動を取り入れることができませんでした。コロナ禍の今は、全日制高校でも難しいとは思いますが、できれば生徒同士直接やり取りができるような活動を取り入れたかったです。ただ、今回はその分机間巡視で生徒に声掛けをし、生徒の意見を紹介することができました。今回感じた改善点は、今後の授業づくりに活かしていきたいと思います。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>通信制高校である本校では、授業（スクーリング）を受けるだけでなくレポートを提出しなければなりません。授業実践後は、昨年よりもレポートの提出状況が非常に良くなったように感じました。出席した子の中には、レポートの通信欄に感想を書いて出してくれる生徒もいました。</p> <div data-bbox="699 880 1139 981" data-label="Text"> <p>通信欄 (生徒から指導者へ感想等をお書き下さい)</p> <p>スクーリング2回しか行がながたけれど、めろきーろ+久保の授業がめろすくて、好きです。(2)</p> </div>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>授業後の感想には「全ての人が文化的で人間らしい生活をするためには、今十分な教育を受けている人から、変わっていく必要があると思った。」というものや、「とてもためになる授業だった。私にできることを考えていきたいと思った。」といった、授業を好意的に受け止めてくれている感想が多かったです。この授業を通じて、生徒が自らの生活を見直すことに繋がったようでした。「防災や環境問題について他人事だったと自覚できた。」という感想もあり、生徒が途上国の現状やSDGs、震災を自分事としてとらえることができるようになったように感じました。</p> <div data-bbox="528 1301 1305 1865" data-label="Complex-Block"> <p>Q3 SDGs (持続可能な開発目標) や防災について学び、考えたことや感想を書いてみよう。</p> <p>全ての人が文化的で人間らしい生活をするためには、今十分な教育を受けている人から、変わっていく必要があると思った。将来は心な余裕があり人の幸せ祈るおとなたけでなく、幸せをかえしてあげられるおとなさんになれたらいいな。(その感想は、ありがとうございます)</p> <p>とてもためになる授業だった。ありがとうございます！私にできることを考えていきたい。</p> <p>防災や環境問題について他人事だったと自覚できた。</p> </div> <p>また、授業で扱った内容そのものに関心を持ってくれている感想も目立ちました。ザンビアの水事情に対して、「日本では24時間使える水道も、ザンビアでは24時間使えないから生活が大変だと思いました。」や、資源・エネルギー問題で紹介した木炭車を挙げて、「日本で戦後木炭車や木炭を使っていたことにびっくりしました。」などがありました。また、動画を流した「遺構</p>

荒浜小学校」に関心を持ち、「普段の生活では知ることのできなかつたことを知れてよかった。最後の震災の動画（小学校）は後で調べてみたいと思いました。」と書いてくれた子もいました。



15. 授業者による自由記述（教師海外研修に参加した本学習指導案作成者として、他の教員へのメッセージなど）

今回で教海研は2回目の参加となりましたが、前回に引き続き、学び多き研修となりました。今年度は新型コロナの影響で海外に行くことができず、国内研修となりましたが、中身の濃い充実した1年間を過ごすことができました。何より、これまでこの研修は一生に一度しか参加できないものでしたので、2年連続して受講することができたのは幸運でした。過年度参加者をはじめ、他県や異校種の先生方と出会うことができ、大変刺激を受けました。コロナ禍で社会情勢が不安定な中、開催して下さった JICA 東京の皆様、講師の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

教海研の魅力の1つは、何と言っても普段の生活ではお会いできない多様な先生方と出会えることです。私自身は、教海研に参加する前は家と職場の往復といった生活で、日々分掌の仕事や授業の準備をするのに精一杯でした。しかし、教海研には自分よりももっと視野の広い先生方が沢山いらっしゃるの、自分の世界観を広げることができます。新しい知識や技術が次々と生まれ、ますます複雑化していく世の中において、教海研は自分を「アップデート」できる機会だと思います。そしてここでの経験は、この先どんな学校に赴任しても役立つものだと感じています。

また、今回の研修では「SDGs」以外にも、例えば「震災」や「移民」、「多文化共生」など国内の様々なテーマも扱って下さいました。一見すると関連がないように思えますが、その1つ1つが、SDGs と関わっていること、相互に関連しあっていることに気付くことができました。

今後も国際理解教育に携わっていきたいと実感できた1年でした。ありがとうございました。



参考資料：アジア太平洋資料センター（PARC）（2014）DVD「もっと！フェアトレード」、柴山知也（2011）「3.11 津波で何が起きたか—被害調査と減災戦略—」（早稲田大学ブックレット「震災後に考える 004」、早稲田大学出版部、吉野英岐/編・加藤真義/編（2019）「震災復興と展望—持続可能な地域社会をめざして—」（シリーズ被災地から未来を考える）有斐閣